

報道関係者各位

株式会社BCN

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-18-14本郷ダイヤビル6F

TEL 03-4236-5200 FAX 03-3818-3006

本件に関するお問い合わせは下記にお願いします。

BCN 田中繁廣

<http://bcnranking.jp/>

■ブルーレイが金額で5割超す DVDレコーダ、強まる価格による主導権争い

*図表1と2は標準パネルデータ、それ以外は最大パネルデータを使用しています

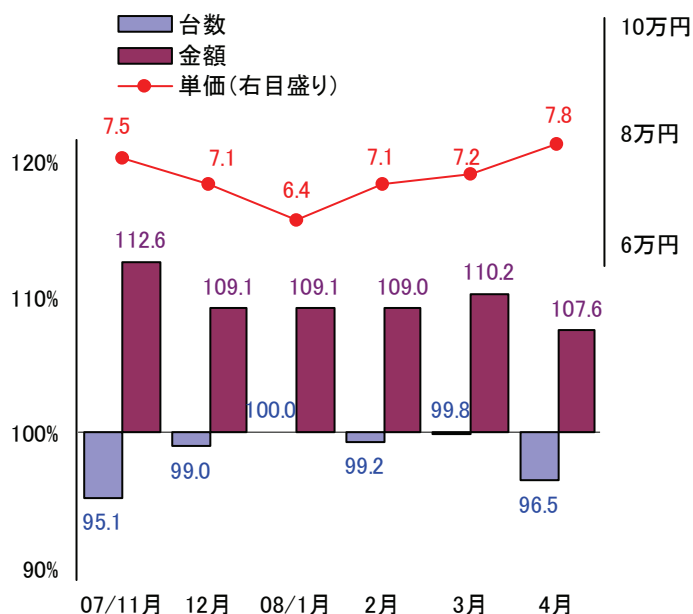
株式会社BCN(本社:東京都文京区、代表取締役社長 奥田喜久男)は、BCNランキングデータをもとに「DVD・HDDレコーダ」の販売動向を分析、その結果、4月はブルーレイディスクに対応した新世代レコーダの台数比率が3割、金額では5割を超えたことが分かった。規格の一本化に伴い各社の平均価格帯は12万円台に集中、価格による主導権争いが強まったことが需要拡大の要因となった。これまではソニー対競合各社の構図が続いたが、4月は店頭価格で10万円を割る新モデルを展開した松下電器産業が急伸しており、ブルーレイを巡るシェア争いはにわかに激しさを増しつつある。

*「新世代レコーダ」と「DVDレコーダ」について

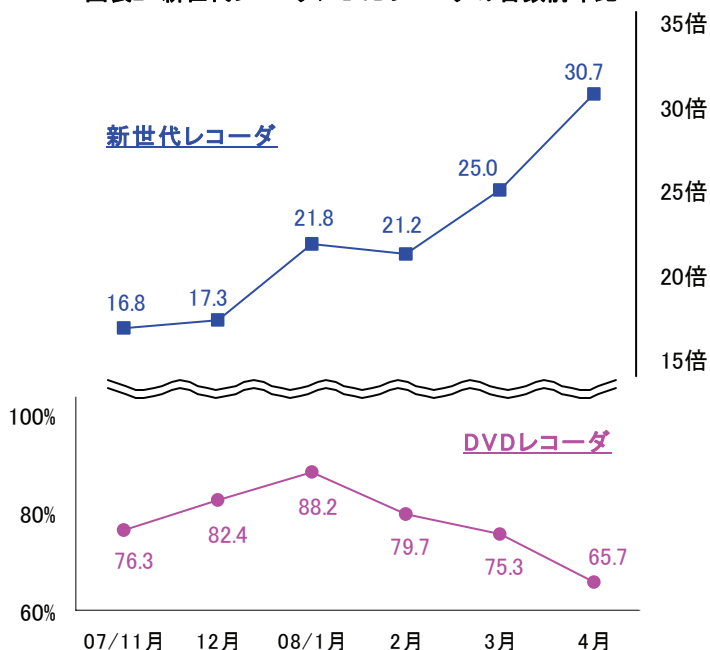
・新世代レコーダ:「ブルーレイ」「HD DVD」に対応した製品

・DVDレコーダ:上記以外で、「HDDレコーダ」などDVDに録画できない製品も含んでいます。

図表1 市場全体の台数/金額前年比と平均単価



図表2 新世代レコーダ/DVDレコーダの台数前年比

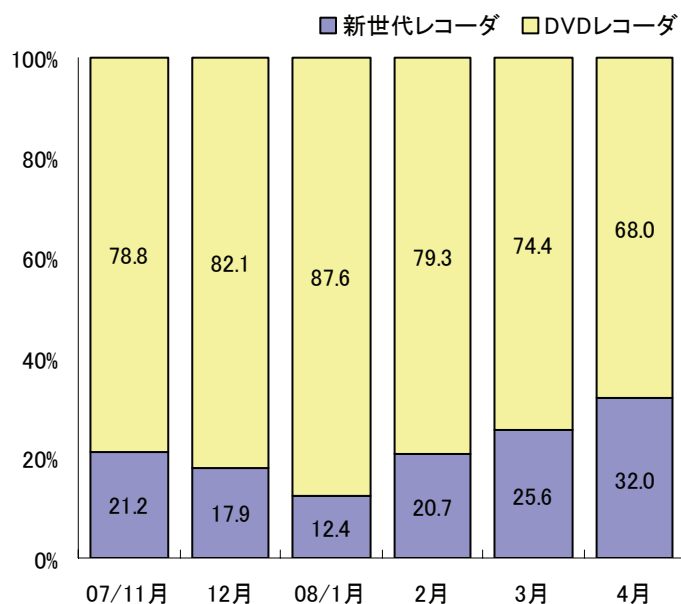


●4月のDVD・HDDレコーダ市場全体の台数伸び率(前年同月比)は96.5%、金額は107.6%であった。台数は3か月連続で伸びを欠くが、金額は新世代レコーダの比率が高まったことで、ここ数か月は10%前後の伸びを維持している(図表1)。新世代レコーダと従来のDVDレコーダの台数伸び率をみると、前者は上昇曲線、後者は右肩下がりの放物線を描き、対照的な荷動きを示している(図表2)。

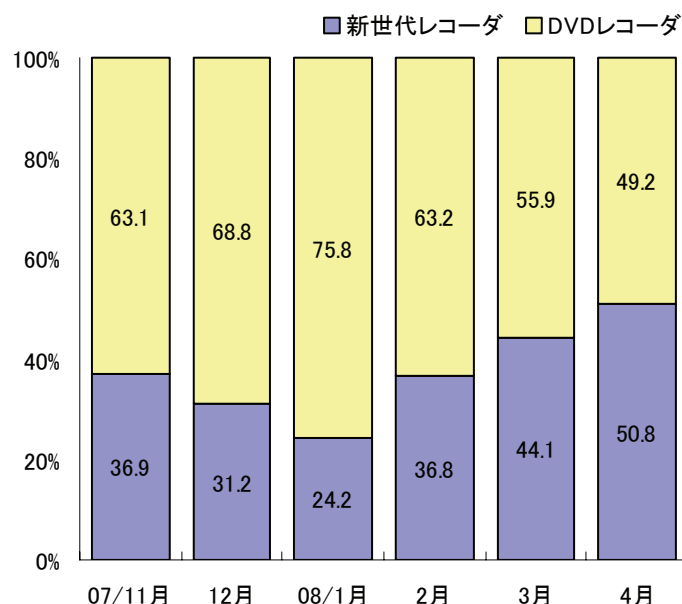
BCNでは全国の量販店26社(アマゾン ジャパン、イーネット・ジャパン、エイデン、大塚商会、グッドウィル、ケースホールディングス、サードウェブ、さくらや、サンキュー、上新電機、ストリーム、セブンドリーム・ドットコム、ソフマップ、ZOA、九十九電機、T・ZONEストラテジィ、デオデオ、東京エディオン、ビックカメラ、ピーシーデポコーポレーション、ベスト電器、ミドリ電化、ムラウチ、ムラウチドットコム、ユニットコム、ラオックス=50音順)の日次配信データをデイリーで収集し配信するBCNランキングを公表しています。このデータをもとに、PCリテール市場の動向を分析したニュース配信を行っています。

* 集計対象の社数は、当社と販売店との間でデータ提供契約を締結している法人数をカウントしております。

図表3 新世代レコーダ/DVDレコーダの台数構成比

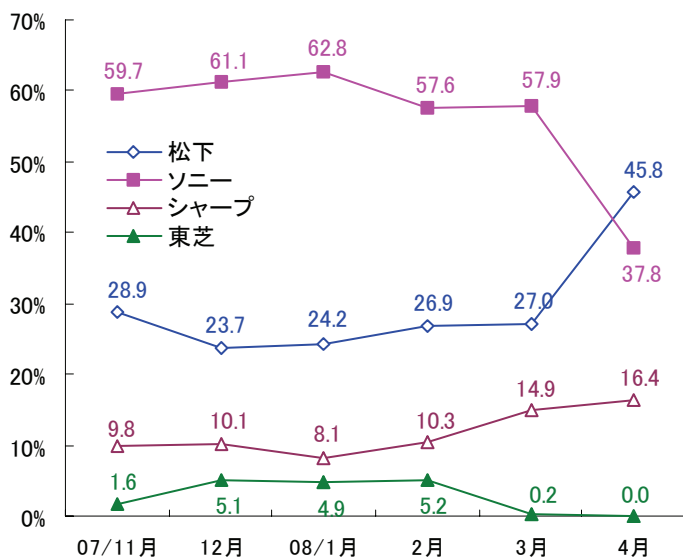


図表4 新世代レコーダ/DVDレコーダの金額構成比

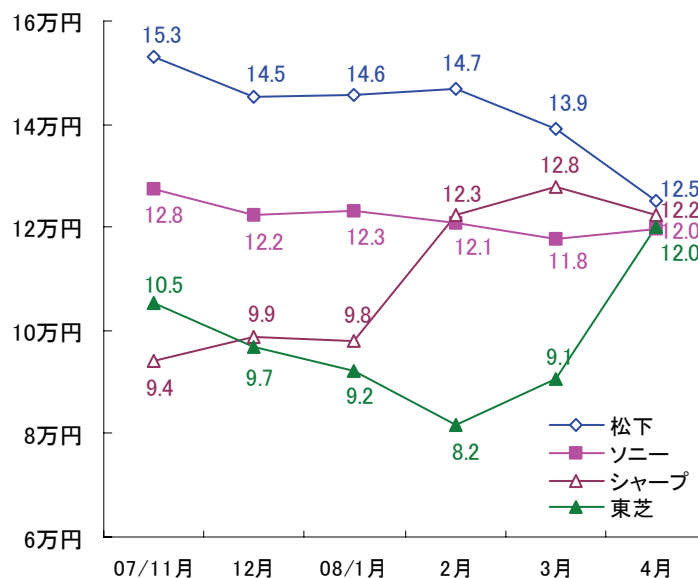


●新世代レコーダとDVDレコーダの4月の構成比をみると、前者は台数で3割、金額では5割を超えた。規格の一本化で消費者の戸惑いが解消されたうえ、五輪特需に向けて価格競争が激化するのは必至で、ここ数か月でブルーレイの台数比率が一気に高まる可能性が指摘されている(図表3-4)。

図表5 新世代レコーダのメーカー別台数シェア



図表6 新世代レコーダのメーカー別平均単価



●新世代レコーダのメーカー別台数シェアが示すように、これまで市場をリードしてきたのはソニーだが、4月は松下電器が躍進、立場を入れ替えた(図表5)。松下電器の急伸は3月に販売を開始したBlu-ray DIGAの「DMR-BR500」が大きな要因。10万円を割る店頭価格に支持が集まった。一方、各社の4月の平均単価は12万円前後に集中、ほぼ横並びの状況となった(図表6)。「DMR-BR500」の台頭が示すように、今後は、低価格モデルのラインアップが増えそうだ。

本リリースについて、今後メールでの配信をご希望の方がいらっしゃれば、対応させていただきます。
お名前・会社名をメールにてお知らせ下さい。

お問い合わせ先: release@bcn.co.jp